

した。

識名園の造園形式は、池のまわりを歩きながら景色の移り変わりを楽しむことを目的とした「廻遊式庭園かいゆうしきていえん」になっています。

「廻遊式庭園」は、近世に日本の諸大名が競ってつくるようになった造園形式ですが、識名園の池に浮かぶ島には、中国風あずまあずまやの六角堂や大小のアーチ橋が配され、池の周囲を琉球石灰岩で積みまわすなど、琉球独特の工夫が見られます。

識名園は、かつて春は池の東の梅林に花



されましたが、去る大戦によつて壊滅的な破壊を受けました。1975(昭和50)年から整備が進められ、約20年の歳月と約8億円にも上る費用を費やして、ようやく今日のような姿を取り戻しました。1976(昭和51)年1月30日、再び国の名勝の指定を受け、2000(平成12)年3月30日には、特別名勝に指定され、さらに同年12月2日、ユネスコの世界遺産に登録されました。

記念スタンプ



②識名開南線、③松川新都心線、⑤識名牧志線
④牧志開南循環線、識名園前バス停より徒歩1分。

休園日 水曜日(その日が休日及び慰霊の日に当たるときは、その翌日)ただし、臨時休園日を設けることもありますので、ご確認ください。

入園時間 4月1日～9月30日 午前9時～午後5時30分
10月1日～3月31日 午前9時～午後5時

観覧料 大人 400円(団体 320円)
小人 200円(団体 160円)
※団体扱いは、20人以上

備考 1. 小人とは、中学生以下をいい、大人とはそれ以外の方をいいます。
2. 保護者が同伴する小学校就学前の小人は、無料とします。

識名園管理事務所 / 〒902-0072 那覇市字真地421-7
TEL(098)855-5936
那覇市民文化部 文化財課 / 〒900-8585 那覇市泉崎1-1-1
TEL(098)917-3501
<http://www.city.naha.okinawa.jp/kakuka/kyouikubunkazai/>

世界遺産 国指定特別名勝

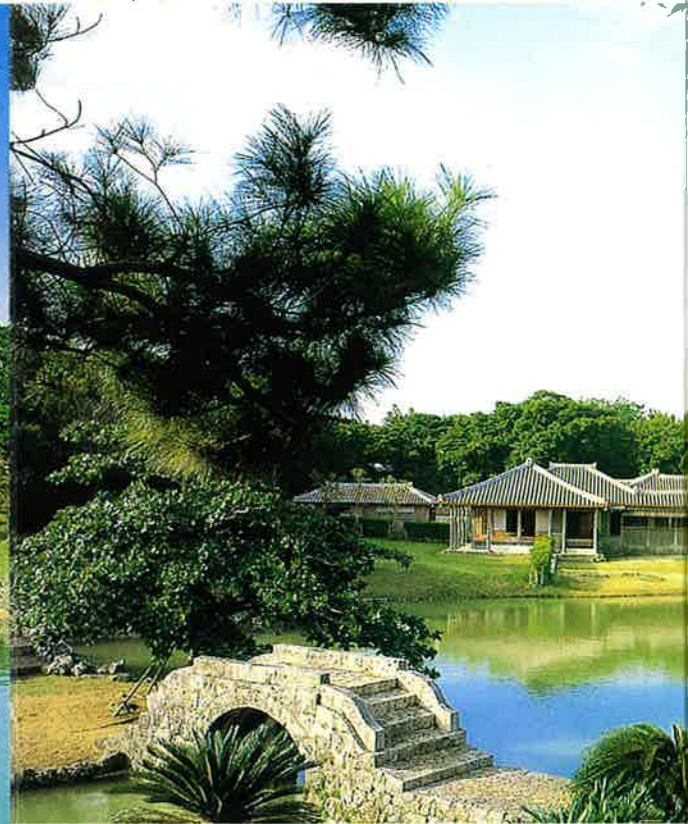
識名園



識名園概要

識名園(俗にシチナヌウドウンと呼ぶ)は琉球王家最大の別邸で、国王一家の保養や外国使臣の接待などに利用されました。18世紀の終わりごろつくられ、1800年に尚温王冊封のため訪れた正使趙文楷、副使李鼎元を招いています。

王家の別邸は、17世紀の後半、首里の崎山村(現在の首里崎山町)に御茶屋御殿がつくられました。首里城の東に位置したので、御茶屋御殿は「東苑」とも呼ばれ、識名園は首里城の南にあるので「南苑」とも呼ばれま



が咲いてその香りが漂い、夏には中島や泉のほとりの藤、秋には池のほとりの桔梗が美しい花を咲かせ、「常夏」の沖縄にあって四季の移ろいも楽しめるよう、巧みな気配りがなされていました。

指定面積は約41,997㎡(約12,726坪)で、そのうち御殿をはじめとするすべての建物の面積は、合計で643㎡(約195坪)となっています。1941(昭和16)年に国の名勝に指定



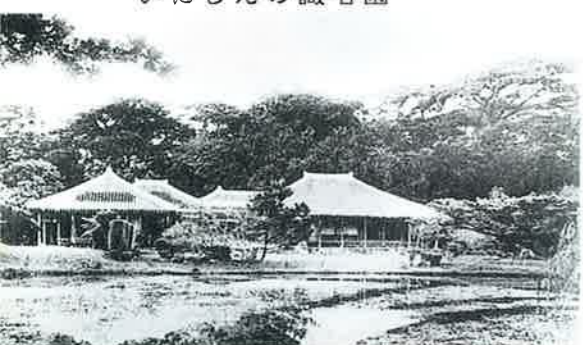
正門

この門は、国王一家や冊封使などが出入りされました。正門、通用門ともヤージョウ(屋門)と呼ばれる屋根のついた形式のものです。

ヤージョウは、格式のあるお屋敷にのみ許されていたものです。識名園のヤージョウは、王府時代の格式を踏襲した趣のある門です。



いにしへの識名園



ろっかくどう
六角堂

池に浮かぶ島につくられた六角形のあずまやです。屋根の形や瓦を黒く色付けているところに、中国的な趣を感じさせます。島へは、一つ石(琉球石灰岩)でつくられたアーチ橋が架けられています。



いくとくせん
育徳泉

育徳泉は清冽な水をたたえ、池の水源の一つにもなっています。琉球石灰岩を沖縄独特の「あいかた積み」にして、巧みな曲線が優しい美しさを感じさせてくれます。また、井戸口は右手にもあります。

井戸口の上には、泉をたたえた二つの碑が立てられています。向かって右は、1800(嘉慶5)年、尚温王の冊封正使趙文楷が題した「育徳泉碑」です。向かって左の碑は、1838(道光18)年、尚育王の冊封正使林鴻年が題した「甘醴延齡碑」です。もとの碑は、戦災を受けて下部が破損したため、1980(昭和55)年に拓本をもとにして復元したものです。



滝口

あふれた池の水が、石造の懸樋から勢いよく落ちていきます。かつてその側には、あずまや(八角堂)があり、夏場の厳しい暑さをしのぐには絶好の場所でした。



ウドッ
御殿

御殿は赤瓦屋根の木造建築で、往時の上流階級にのみ許された格式あるつくりですが、雨端などに民家風の趣を取り入れています。明治末期から大正時代のはじめごろ、増改築がなされました。

総面積は525㎡(約159坪)で、冊封使を迎えた一番座、それに連なる二番座、三番座、台所、茶の間、前の一番座、前の二番座など、15もの部屋がありました。



石橋

池の中に配された島に、大小二つの石橋が架けられています。いずれも、橋の中央が高くなったアーチ橋で、中国風のデザインです。



いにしへの識名園



かんこうだいひ
勸耕台碑

「勸耕台碑」は、1838(道光18)年に尚育王の冊封正使林鴻年が題したもので、手入れの行き届いた田畑を見て、王が心から人々を励ましているのとたたえたのです。もとの碑は、戦災を受けて破損したため、1980(昭和55)年に拓本をもとにして復元したものです。



ふねあげば
舟揚場

池に浮かべる船を揚げるところでした。